

やまぐちっ子学力向上だより【家庭版】

第 7 9 号 H28.9.30
山口県教育庁義務教育課

全国学力・学習状況調査の結果が公表されました

~ 全国学力・学習状況調査は、

こどもたちに身に付けてもらいたい力を問題の形で示した、国からのメッセージです ~ 「平成28年度全国学力・学習状況調査」の結果が、9月29日に文部科学省から公表されました。今回の「やまぐちっ子学力向上だより」では、山口県の児童生徒の状況をお知らせします。

(1) 教科に関する結果から

平均正答率を山口県と全国で比べると、小学校・中学校ともに、国語、算数・数学のA・Bの全区分において、全国平均を上回る結果でした。

【小学校】

区分	平均正答率 (%)		全国との比較
	山口県	全国	
国語A	74.6	72.9	+1.7
国語B	58.7	57.8	+0.9
算数A	78.4	77.6	+0.8
算数B	48.1	47.2	+0.9

【中学校】

区分	平均正答率 (%)		全国との比較
	山口県	全国	
国語A	76.9	75.6	+1.3
国語B	68.2	66.5	+1.7
数学A	63.6	62.2	+1.4
数学B	45.0	44.1	+0.9

今年度の問題の中から、特徴的なものを一つ紹介します。

【 小学校算数B 2(3) 】

<問題の概要>

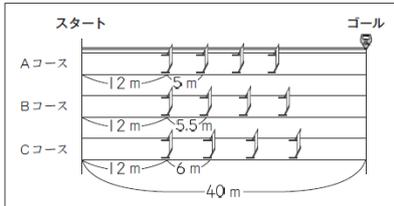
体育の時間に40mハードル走を行っている場面を取り上げています。

ここで、40m走のタイムをもとに、自分の40mハードル走の目標のタイムを、次のような式で求めることとしました。

40m走のタイム+0.4(秒)×ハードルの数=目標のタイム

(2)の問題では、40m走のタイムが8.1秒、ハードル台数が4台のときのまなみさんの目標のタイムを求めています。

40mのコースにハードルを置いた図



まなみさんは、目標のタイムを達成することができました。そして、そのことを、先生に伝えました。



先生

目標のタイムを達成することができたなら、40mハードル走の目標のタイムを求める式を作り直しましょう。
40m走のタイムやハードルの数は変えずに、式の中の0.4を、例えば0.3に変えるとよいと思います。

もとの式

$$40\text{m走のタイム} + 0.4(\text{秒}) \times \text{ハードルの数} = \text{目標のタイム}$$

作り直した式

$$40\text{m走のタイム} + 0.3(\text{秒}) \times \text{ハードルの数} = \text{目標のタイム}$$



まなみ

0.4のところを0.3に変えるのですね。
式の中の0.4や0.3は、どのような時間を表しているのかな。

(3) 式の中の **0.4** や **0.3** は、どのような時間を表している数だと考えられますか。言葉や数を使って書きましょう。

【正答】 2(3)

例) 0.4や0.3は、ハードル1台あたりに増える時間であると考えられます。

この問題の山口県の児童の平均正答率は16.2%(全国15.6%)、無解答率は19.6%(全国18.6%)という結果でした。

この問題は、式の中の「0.4」や「0.3」の意味を説明することを求める問題です。この問題のように、算数・数学において、山口県の児童生徒には、式やその中の数値の意味について自分の言葉で説明することに課題が見られました。算数・数学に限らず、児童生徒が、今学習していることにはどのような意味があるのか考え、理解することが必要です。各学校においては、今回の結果から見てきた課題を解決するための取組を進めていきます。

(2) 児童生徒質問紙の結果から

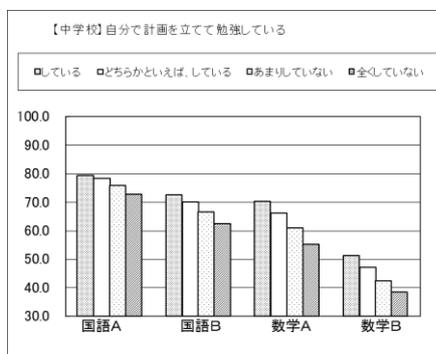
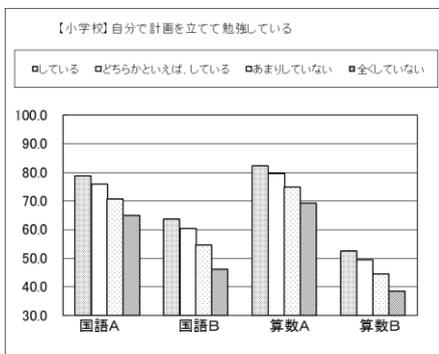
全国学力・学習状況調査では、教科に関する調査とともに、質問紙調査が行われています。児童生徒質問紙の結果と、教科に関する調査の結果を合わせて分析してみると、今後の学力向上に関する取組の在り方について、ヒントが見えてきます。ここでは、二つほど紹介します

その1：時間を計画的に使うことができるようになることが大切です

児童生徒質問紙で「自分で計画を立てて勉強している」ことに肯定的な回答をした児童生徒は、全ての教科の正答率が高い傾向にあります。また、テレビゲームをする時間、インターネットを利用する時間については、時間が短いほど、教科の正答率が高い傾向にあります。規則正しい生活習慣を身に付けさせるとともに、「やるべきこと」と「やりたいこと」を整理し、時間を有効に使うことができる力を育むことが求められます。

計画どおりいかないときには、その理由を一緒に考えましょう。

【回答結果と教科の正答率の関係】



【家庭での取組例①】

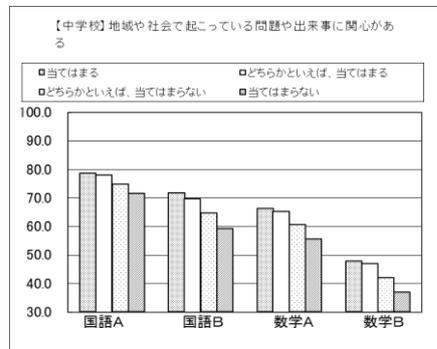
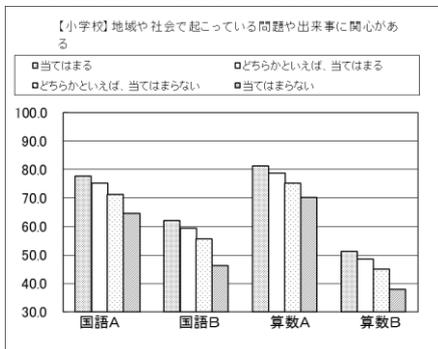
親子で一緒に「わたしの時間書」をつくり、ときどきチェックしながら、計画が守れているかどうか確認する。

その2：周囲の出来事について自分のこととして考えられるようになることが大切です

児童生徒質問紙で「地域や社会で起こっている出来事に関心がある」ことに肯定的な回答をした児童生徒は、全ての教科の正答率が高い傾向にあります。山口県では、コミュニティ・スクールの取組により、学校と地域のつながりは全国的に見ても良好な状況にあります。今後は、地域社会にいつそう主体的に参画する姿勢を育むことが求められます。

新聞やテレビなどのニュースも、話題を共有する上で有効です。

【回答結果と教科の正答率の関係】



【家庭での取組例②】

地域の行事やイベントに、親子で一緒に参加する。その際、行事やイベントを運営している人に注目し、活動の様子を話題にする。

新たに取り組み始めたことが、習慣として児童生徒に定着するまでには長い時間がかかります。学校・地域・家庭が連携・協働し、社会総がかりで、児童生徒の成長を見守っていくことができると考えています。今後も、山口県の学校教育に対して、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。